

第27回長塚節文学賞 短歌部門

大賞

| | | |
|-------|--------|-------------------------|
| 村崎 絹代 | 千葉県千葉市 | 幼き日被爆せし夫の傍にゐて十一時二分われ黙禱す |
|-------|--------|-------------------------|

優秀賞

| | | |
|-------|--------|-----------------------------|
| 安田 恭子 | 千葉県市川市 | ランドセルの重さに耐へず転びたる長女六十歳定年となる |
| 黒澤 孝子 | 茨城県常総市 | うしろ手に麦を踏み行く老い父は筑波おろしに頬かぶりして |
| 角田 好弘 | 山梨県笛吹市 | 幸せの形か未だ働らけるデイサービスのユニフォーム干す |
| 萩原 瑞葵 | 群馬県高崎市 | 汗止まぬ二時間ママチャリ旅の果て蓮根畑の葉の波涼し |
| 野口 英二 | 茨城県土浦市 | 生きをれば楽しみありと神のこゑ言葉選びて今日も短歌詠む |

佳作

| | | |
|---------|----------|-----------------------------|
| 森 美千瑠 | 茨城県石岡市 | 晴れ渡る空見上げよと介護士は共に歩行のわれに言ひたり |
| 橋本 弘子 | 埼玉県さいたま市 | 徐にドアを開ければ友らゐてふるさと訛りの挨拶となる |
| 青木 光政 | 千葉県松戸市 | 江戸の世に干拓されし故郷行けば竹馬の友の稲刈る姿 |
| 田中 秀夫 | 茨城県つくば市 | シャッターは目を射るように押すと言ふ瞳輝く友の鳥達 |
| 須藤 勝栄 | 茨城県結城市 | 一振りの鎌の勢い頼りにて我が丈ほどの夏草を刈る |
| 神郡 貢 | 茨城県下妻市 | 鬼怒川で石で水切る遊びして孫つれて訪ふ節の生家 |
| 加藤 典彦 | 神奈川県相模原市 | 友達が出来たと言われ夏去ったサーカスの子が朝顔くれた |
| 貝塚 勇 | 茨城県土浦市 | 「南天の花芽は残しておきました」女庭師の紺色法被 |
| 松崎 マサ子 | 茨城県常総市 | 「押せっ押せ」亡夫の声援耳に在り最良力士の勝名乗り見る |
| 藤本 美智子 | 東京都八王子市 | ロザリオをそっと握りし我が耳に余命一年医師の声重く |
| 宮川 礼子 | 茨城県筑西市 | 軒下に玉ネギ五十吊し終へ老の暮しは何と楽しい |
| 佐々木 二三男 | 茨城県つくば市 | 集落に残る屋号は多けれど生業替えつ皆たくましく |
| 山上 ふみ子 | 茨城県神栖市 | しののめのピーマンハウスは露ふくみするどく響く新たな鋏 |
| 瀧田 勇 | 茨城県桜川市 | 線香の香り残りて解体の家に残さる空の仏壇 |
| 飯田 初江 | 茨城県笠間市 | 電工の腕見込まれし老体が笑顔をこぼす真夏の梯子 |
| 松本 進 | 山口県光市 | 年老いた農夫の消えた田んぼには長い棒持つ測量士来る |
| 船岡 房公 | 滋賀県大津市 | 別れぎわ施設の窓のうちそとを隔てて義母は涙拭わず |
| 茂野 勝 | 石川県金沢市 | 激震に田は罅割れて畑歪み梅雨に濡れつつ農夫佇む |
| 深谷 京子 | 福島県須賀川市 | 五年めの日目を埋めゆく連用日記一年めにはまだ母がいた |

入 選

| | | |
|--------|------------|--------------------------------|
| 富永 加代子 | 千葉県市川市 | 姉川の夕暗がりをおたるとき稲の香の立つ風の吹きみて |
| 青木 節子 | 長野県塩尻市 | 病室に高校合格知らせくる孫の笑顔に痛み和らぐ |
| 秋山 典子 | 千葉県市川市 | 落ち葉舞う小春日和の遊歩道白寿の母の車いす押す |
| 堀内 道子 | 茨城県潮来市 | こうちゃんの食べるお米になるんだと男孫に田を見せ夫はほほ笑む |
| 田口 すい子 | 茨城県東茨城郡茨城町 | 月探査機着陸報に我は地に未来託して菜花播きおり |
| 野上 卓 | 東京都世田谷区 | 木道の板目あたらし菖蒲田のうすくいろづくほとり歩める |
| 上岡 由紀男 | 千葉県市川市 | 陽だまりにざぶとんひとつ残されて母亡き日々の寂しさ募る |
| 武田 悟 | 宮城県遠田郡涌谷町 | 時空超え知ってる顔が絡みあう高熱の夜の夢の継ぎはぎ |
| 萩原 清 | 茨城県石岡市 | 麦踏みのおねねこに寝る幼な子は還暦を過ぎ我卒寿過ぎ |
| 牛鬼 | 岡山県瀬戸内市 | 募金箱ポケット探る年金の老いのコートに初雪ぞ舞ふ |
| 持田 憲治 | 茨城県守谷市 | なつかしき歌友を偲び写経せり秋明菊の楚々と咲く朝 |
| 鱒本 ミツ子 | 京都府舞鶴市 | 盆の花比島の父へ届けよと今年も供う舞鶴湾に |
| 菅谷 千恵子 | 群馬県吾妻郡東吾妻町 | 真清水の砂巻き上げて涌く傍に山葵は白き花掲げたり |
| 守田 靖 | 千葉県柏市 | 子供らが魚釣する池の辺の暮れゆく空に白き月出づ |
| 安蔵 みつよ | 茨城県水戸市 | 春植ゑしどんぶりほどの蒟蒻玉堂々育ち胸までの丈 |
| 岩岡 正子 | 茨城県筑西市 | 言ひ過ぎしことには触れず孫と共にすべすべとした白葱刻む |
| 槭冬 弱虫 | 東京都三鷹市 | 地下深く手を繋いだら六ヶ月棘が気になる冷却しようか |
| 宮崎 眞弓 | 滋賀県米原市 | 煩悶のありや就職五年目の子の喉仏かけの生れゆく |
| 江戸 美代子 | 茨城県つくば市 | 八十二歳戦争遺児の終戦日見上ぐる青空に涙溢るる |
| 小林 次郎 | 新潟県南蒲原郡田上町 | 茜さす朝日に姿照らされて越後平野に今日も稲刈る |
| 松田 早苗 | 茨城県つくば市 | 胸高に結ぶ文庫のはるかなる衣裳箆の桐のつめたさ |
| 中村 宗一 | 奈良県御所市 | 初めての出稼ぎの地石下町手漕ぎの舟で鬼怒川を渡る |
| 海老沢 幸子 | 茨城県土浦市 | 団地祭決行となるアーさんも施設に行ったの話題のあとに |
| 村田 正子 | 茨城県日立市 | スマホにて初バイト代の入金確かめる二十の君の細き手首よ |